

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
♪ジョイコン NEWS♪  
第70号(2025年4月)  
★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

前号でお知らせした通り、2025年度も6回の公演(奇数月第3日曜日)を予定しております。  
5月;弦楽四重奏、7月;トランペット・アンサンブル、9月:バンドネオン・カルテット、11月;弦楽  
アンサンブル、1月;ピアノ・リサイタル、3月;チェロ・リサイタルと盛りだくさんです。  
日程や出演者などの詳細は、ホームページ(<https://www.ohkurayama-joycon.com/>)に掲載し  
ましたので、ご覧ください。  
ご来場を心よりお待ちしております。

それでは、「♪ジョイコン NEWS♪」(第70号)をお届け致します。

\*\*\*\*\*  
【もくじ】

- 【1】次回コンサートのご案内  
    ◆第74回コンサート  
【2】今後の予定(先取り情報)  
    ◆第75回コンサート  
【3】2025年がメモリアルイヤーの作曲家  
【4】コンサートのアンケートから

\*\*\*\*\*  
【1】次回コンサートのご案内(予約受付中です)

- ★☆☆第74回コンサート☆☆★  
◇2025年5月18日(日曜日)14時開演  
◇出演:カルテット・プリマヴェーラ(石川未央 Vn、清水咲 Vn、多湖桃子 Va、大江慧 Vc)  
◇プログラム(予定)  
    ◆ハイドン:弦楽四重奏曲 第76番 二短調 作品76-2「五度」  
    ◆ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第3番 二長調 作品18-3  
    ◆ドビュッシー:弦楽四重奏曲 ト短調 作品10  
◇料金:大人2,000円、高校生以下1,000円  
◇会場:横浜市港北公会堂(東急東横線 大倉山駅より徒歩7分)

第74回ジョイフルコンサートは、  
『プリマヴェーラの陽光～春に贈る弦楽四重奏のハーモニー』と題して、お届けします。

\*\*\*\*\*  
メッセージが届いています

\*\*\*\*\*  
この度は大倉山ジョイフルコンサートに出演させていただき、大変光栄に思います。  
今のメンバーになって初めて取り組んだハイドンの「五度」、曲集のうち最初に作曲されたとされ  
るベートーヴェンの第3番、そして私たちにとって初めてのフランス作品ドビュッシー。  
新緑の季節にフレッシュな音楽を皆様と共有できましたら嬉しいです。  
(カルテット・プリマヴェーラ)

\*\*\*\*\*  
3月～4月の初めにかけて毎週冬と夏が交互に来ているような気候で、体がついていくのが大  
変でした。  
やっともう寒い日は無いようなので、ホッとしています。  
どうぞ皆さま体調にはお気を付けください。  
今回のジョイフルコンサートはまさに春にぴったりのカルテット・プリマヴェーラによる弦楽四重奏  
です。とても華やかなステージになると思います。どうぞお楽しみになさってください。

◆ハイドン

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン(1732-1809)は、オーストリア出身の作曲家であり、古典派音楽の  
確立と発展に多大な貢献を果たした人物です。「交響曲の父」や「弦楽四重奏の父」と称され、  
彼の作品は後の作曲家たちに大きな影響を与えました。ハイドンは低い身分の家庭に生まれな

がらも、その音楽的才能を認められ、幼少期にウィーンで聖歌隊員として教育を受けたそうです。その後、宮廷音楽家としてのキャリアを積み、1761年にエステルハージ家の楽長に就任しました。彼は約30年間にわたりエステルハージ侯爵のもとで作曲活動を行い、多くの交響曲、弦楽四重奏曲、オラトリオ、ミサ曲などを生み出しています。ハイドンの音楽は、明快な構造とウィットに富んだ表現が特徴であり、特に交響曲と弦楽四重奏の分野で革新をもたらしました。彼の作品には、独創的な楽想や対位法の巧みな活用、そしてユーモアが込められており、それが後のモーツァルトやベートーヴェンにも影響を与えています。

#### ◆弦楽四重奏曲 第76番 二短調 作品76-2「五度」

「エルデーディ四重奏曲」として知られる作品76は、ハイドン晩年の傑作として高く評価されています。

この作品集は、1796年から1797年にかけて作曲され、ハンガリー貴族ヨーゼフ・エルデーディ伯爵に献上されました。全6曲から成るこの作品群の中で、特に第76番二短調(作品76-2)は「五度(Quinten)」の愛称で親しまれています。

「五度」という名称は、第1楽章の冒頭に登場する特徴的な主題に由来しています。この主題は、下降する完全五度の音の流れによって形成され、作品全体に統一感をもたらしていると言えます。

第1楽章はアレグロの速度で書かれ、二短調の緊張感とダイナミックな対位法が印象的です。特に、主題が対話的に展開される様子は、ハイドンの作曲技法の成熟を示していると言われています。

第2楽章はアンダンテ・オ・ピウ・トスト・アレグレット 二長調、8分の6拍子、三部形式(あるいは変奏曲形式)で、穏やかで優雅な雰囲気を持ちます。ここでは旋律の装飾が美しく、ハイドンの叙情的な一面が表現されていると言われています。特に、中間部での軽やかなパッセージは、穏やかな主題とのコントラストを強調していて、とても印象的です。

第3楽章はメヌエット(アレグロ・マ・ノン・トロポ - トリオ)で、従来のメヌエットの形式を超えた力強さを感じる楽章です。ハイドンのメヌエットによく使われる対位法的な工夫が凝らされています。3拍子のリズムに乗せて、鋭いアクセントと活気ある旋律が展開されていくのが印象に残ります。特に、トリオ部分では静かで親しみやすい旋律が奏でられ、メヌエット部分との対比が効果的です。

第4楽章はヴィヴァーチェ・アッサイのフィナーレで、急速なテンポと軽快な動きが特徴です。この楽章ではフーガ的な要素が用いられ、主題が次々と絡み合いながら展開していきます。ハイドンはこの楽章において、緊張感と軽快さを感じさせる音楽で、最後とても華やかに終わります。

作品76-2「五度」は、ハイドンの弦楽四重奏曲の中でも特にドラマティックで洗練された構成を持つ曲であり、その対位法的技法やリズムの工夫が高く評価されています。ハイドンの弦楽四重奏は、ベートーヴェンやシューベルトといった後続の作曲家にも多大な影響を与え、室内楽の発展において不可欠な存在となりました。特に「五度」は、その冒頭の印象的な動機や表現の多様性によって、とても人気のある作品です。

最初短調で物悲しく始まりますが、いろいろな展開があって最後とても華やかに盛り上がり終わります。いろいろ活動しようとする季節にぴったりの曲ではないでしょうか。どうぞお楽しみになさってください。(A.N)

#### ■予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

\*\*\*\*\*

#### 【2】今後の予定(先取り情報)

#### ★☆第75回コンサート☆★

◇2025年7月20日(日)

◇出演：トランペット・アンサンブル「Seashell Diva」(平山あかり Tp、鈴木璃穂 Tp、関根美羽 Tp、妹尾美雨 Tp、大野真由子 Pf)

◇プログラム(予定)

- ◆G.P.テレマン:協奏曲ニ長調 TWV 54:D3
- ◆S.シャイト:カンツォン・コルネット
- ◆C.ドビュッシー:月の光
- ◆R.ビンジ:コルネット・カリヨン
- ◆T.スティーブンス:新ヴェニスの謝肉祭

ほか

◇予約受付開始:2025年5月19日(月曜日)午前9時より

★プログラム等詳細は順次、本紙面、ウェブサイト、チラシ等でお知らせします。

\*\*\*\*\*

【3】2025年がメモリアルイヤーの作曲家

今年がメモリアルイヤーとなる作曲家(一部)を紹介いたします。

「生誕200年」

★ヨハン・シュトラウス2世[1825-1899]:

オーストリアのウィーンを中心に活躍した作曲家、指揮者です。

ヨハン・シュトラウス1世の長男であり、弟にヨーゼフ・シュトラウスとエドゥアルト・シュトラウス1世、甥にヨハン・シュトラウス3世がいます。

毎年元日に行われる「ウィーン・フィルのニューイヤーコンサート」では、彼を中心とするシュトラウス・ファミリーの作品をメインにプログラムが組まれます。

喜歌劇『こうもり』、ワルツ『美しく青きドナウ』などのたくさん名曲があります。

「生誕150年」

★ラヴェル[1875-1937]:

ドビュッシーと並ぶフランス印象派音楽の巨星です。

代表作には、『スペイン狂詩曲』やバレエ音楽『ダフニスとクロエ』『ボレロ』などが有名です。

ムソルグスキー作曲のピアノ組曲『展覧会の絵』を管弦楽に編曲したことで知られています。

★クライスラー[1875-1962]:

オーストリア出身の世界的ヴァイオリニスト、作曲家です。

『愛の喜び』『愛の悲しみ』『美しきロスマリ』などの名曲で知られています。

★芥川也寸志[1925-1989]:

文豪芥川龍之介の三男にして、戦後日本を代表する作曲家の一人です。

代表作には『交響管弦楽のための音楽』、映画音楽や放送音楽の分野でも『八甲田山』『八つ墓村(野村芳太郎監督)』『赤穂浪士のテーマ』などが知られるとともに、童謡『小鳥の歌』『ころぎ』等の作曲者としても知られています。

「没後150年」

★ビゼー[1838-1875]:

19世紀フランスの作曲家で劇付随音楽『アルルの女』、オペラ『カルメン』『真珠採り』などが有名です。

「没後100年」

★サティ[1866-1925]:

近代フランスの革新的作曲家です。「音楽界の異端児」「音楽界の変わり者」の異名があり、ドビュッシーやラヴェルに影響を与えたといわれています。『3つのジムノペディ』『6つのグノシエンヌ』『あなたが欲しい(ジュ・トゥ・ヴー)』『ピカデリー(マーチ)』などがあります。

「没後50年」

★ショスタコーヴィチ[1906-1975]:

シベリウス、プロコフィエフと共に、マーラー以降の最大の交響曲作曲家と評価されています。

さらに、15曲ある弦楽四重奏曲は20世紀の古典として音楽史に刻まれています。

ショスタコーヴィチの音楽には暗く重い雰囲気のものが多いものの、その一方でポピュラー音楽、ジャズ風の軽妙な作品、映画音楽なども数多く残しています。

50年単位で紹介しましたが、見方を変えると新たな発見があるかもしれません。

ぜひ調べてみて多くの作品に触れてみるのもクラシックファンの楽しみです。(でくのぼう)

\*\*\*\*\*

#### 【4】コンサートのアンケートから

-----  
前回のジョイフルコンサート(3月16日公演)『青島周平ピアノ・リサイタル』は如何でしたか？

「Web アンケート」には、演奏のご感想や運営について、今後のご希望など貴重かつ熱心なコメントを頂きました。今回もその一部をご紹介します。

アンケートでの質問「今回のコンサート内容はいかがでしたか？(5段階評価)」では、「大変良かった」71%、「良かった」29%と高い評価でした。

自由記入欄の「演奏のご感想」では、  
『青島さんのピアノ若々しい力強い演奏でとても素敵でした』『力強い青島周平君の演奏がとても良かったです。風雨の中行った甲斐がありました』『後半の口短調ソナタが聴きたくて行きました演奏はとても良かったです』など、たくさんのご感想が寄せられました。

また『…重たい楽曲ばかりでしたが(中略)…楽器もスタインウェイだったからか、聴いていて疲れることなく良かったです』『使用されていたピアノが素晴らしくてビックリしました』など使用ピアノに関するコメントもありました。

〈注〉今回の使用ピアノ(Steinway & Sons Model-D)は諸事情によりレンタルいたしました。

「運営について」では、  
『運営は入場もスムーズでしたし、案内の方も親切で感じがよかったです』など好意的コメントが寄せられました。

一方、『会場前方数列は簡易椅子で音が鳴り易い為、お子さんは固定椅子の方へ誘導してはいかがでしょう？』とのご意見がありました。

頂いたご意見やご提案も参考にしながら、引き続き運営の改善をして参ります。  
アンケート回収数:17(回収率10%)

\*\*\*\*\*

#### 【編集後記】

-----  
今年のお花見は如何でしたか？

不順な天候が続いていましたが、桜前線も東北北部を進んでいます。

関東地域では多くのお花見スポットが満開を過ぎ、花の絨毯ができているところも多いようです。晴れた日には道端の草花の名前を調べながら散歩したり、“桜吹雪”や“花筏”を眺めるのもこの時期の楽しみですね。(お)

\*\*\*\*\*

※このメールマガジンは、大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

#### ■次回予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

#### ■バックナンバー

メールマガジンのバックナンバー(PDFファイル)はこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

#### ■配信停止／アドレス変更

メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら

<mailto:info@ohkurayama-joycon.com>

-----  
発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会

Eメール <mailto:info@ohkurayama-joycon.com>

携帯電話 080-8424-5108

URL <https://www.ohkurayama-joycon.com/>  
-----